

平成 26 年度第 1 回大阪府医療対策協議会議事録（公開版）

日時：平成 26 年 6 月 30 日(月)13 時 15 分から 14 時 00 分

場所：大阪赤十字会館 3 階 302・303 会議室

### 【次第】

#### 議題

- 医師臨床研修制度の見直しについて  
(募集定員の最終配分調整)

### 【出席委員】

- 大阪市立大学大学院医学研究科長兼医学部長－荒川委員
- 大阪府私立病院協会会長－生野委員
- 大阪府歯科医師会会長－太田委員
- 大阪大学大学院医学系研究科長兼医学部長－金田委員
- 近畿大学医学部長－楠委員
- 大阪府公立病院協議会会長（八尾市立病院長）－佐々木委員
- 大阪府医師会副会長－茂松委員（大阪府医療対策協議会会長）
- 大阪医科大学学長－竹中委員
- 大阪府立病院機構理事長－遠山委員
- 大阪府病院協会会長－福原委員
- ささえあい医療人権センターCOML理事長－山口委員
- 関西医科大学理事長・学長－山下委員

### 【欠席委員】

- 大阪府自治体病院開設者協議会会長（岸和田市長）－信貴委員

### 【議事概要】

- 定員配分先病院の選定について

【各病院から提出された調査表に基づき協議】

- ・この内容で評価するという事で調査票を集めているので、調査票の記載内容を基に判断するのがよい。
- ・調査項目ごとに評価点数配分の軽重を付けると公平ではないので、各項目を平等に評価するのがよい。
- ・今回の評価は、この調査項目に基づく判断となるが、来年度の調査や評価は医師派遣実績や医師不足地域など根本的なところを押さえるべき。
- ・我々が評価した調査表の項目に病院が配慮していくことによって、地域医療を促進し医師育成を進めることができるのであれば、これが一つの努力目標になる。
- ・調査票の内容は自己申告なので、少なくとも、定員を配分する病院に対しては調査票の内容を確認する必要がある。

- ・今回は、すべての調査項目を平等に評価して、3つの病院（大阪警察病院・府中病院・淀川キリスト教病院）に定員を配分するということが決定したいが如何か。  
⇒一同了承。

○今後の評価基準・調整方法等についての意見

- ・地域の医療が医師不足で崩壊しつつある現状が起こった一番大きな原因は、新臨床研修制度の発足により大学病院の果たしていた医師派遣機能が低下してしまったため。そこをふまえて議論する必要がある。
- ・国が決めた医師派遣加算の算定方法において、地域医療に貢献している大学病院の分院への医師派遣が評価されないことは問題。
- ・大学附属病院に若い医師を集めて医師派遣機能を上げることが大切。
- ・南河内医療圏は大学があるために人口当たりの医師数で比較して医師不足地域ではないという判断になっているが、実態としては、南河内が医師不足ではないとは思えないので、何か別の指標を用いて医師不足のエリアの判断をするべきだと思う。
- ・募集定員の調整は、地域医療計画の策定と併せて行わないといけない。
- ・募集定員の調整を実施しているだけでは、地域医療の体制確保はなかなかうまくいかない。
- ・大阪府だけが常に募集定員の削減対象となるということは受け入れがたい。削減の程度を減らす、あるいは削減の対象から外すなど、国に対して働きかけてもらいたい。
- ・例えば、先端・先進医療の部分は大学病院で、診療所の先生は主治医機能の研修を受け持つといった風に枠組みを工夫した形で研修ができないか考えるべきではないか。
- ・今は消化管だけ呼吸器だけという勉強になってしまって、患者さん自身を診られていないという医師が増えてきている。そのあたりを変えていかないといけない。その上で、役割分担をはっきりさせた仕事ができるようになれば一番良い。